

接尾辞「的」に関する一考察
- 「男性的(な)」と「女性的(な)」を例に -

A Study on the Japanese Suffix *teki*
- From the Example of *Dansei-teki (na)* and *Josei-teki (na)* -

原田 朋子

要 旨

語基と接尾辞「的」との関係論じた研究は多く見られ、連体修飾としてはたらく際の「-的な」と「-的 ϕ 」の形については、「-的 ϕ 」は主に新聞などのかたい文体で使用される傾向があることがこれまでに指摘されている。しかし、「-的な」と「-的 ϕ 」の違いの詳細は、特に意味的観点からは明らかではない。そこで、本稿では、語基「男性」「女性」を一例に、「-的(な)」に関する現象を考察した。まず、「男性的」「女性的」の後接形態から、活用語尾「な」がある形で連体修飾としてはたらく規定用法が圧倒的に多いことを明らかにした。一方で、「男性的 ϕ + 体言」「女性的 ϕ + 体言」の形は、臨時一語と位置づけた。臨時一語の用例数は、活用語尾が備わっている場合と比べ多くはない。また、「男性的 ϕ 」及び「女性的 ϕ 」と「男性的な」及び「女性的な」に後接する語の語種には差異が認められ、前者に対し、後者のほうは借用語だけではなく、固有名詞を含む固有語など、多くの語種とむすびついていた。接尾辞「-らしい」と置換可能かどうかという手法で、意味的観点から実際の用例における現象を分析した結果、「男性的(な)」及び「女性的(な)」の「-的(な)」に多様な意味を見出した。さらに、「男性的な」「女性的な」と「男性的 ϕ 」「女性的 ϕ 」の間には、僅かな違いも認められた。形態的観点からも意味的観点からも、「男性的な」及び「女性的な」は、「男性的 ϕ 」「女性的 ϕ 」よりも幅広く、自由に使えるようである。

キーワード

日本語 接尾辞 的 的な 臨時一語 語基 男性的 女性的

1 はじめに

接尾辞「的」に関する研究は、近世から近代における詳細な史的研究や、近代以降の使われ方のように史的観点からの先行研究が見られる。また、中国語の「的」の使われ方との関係を考察した研究なども行われてきた。しかし、「的」の現代語としての現象を考察した従来の研究は、語基と「的」の形態的・意味的關係を捉えるものが中

心で、同じ語基を持ち連体修飾としてはたらく「-的φ」と「-的な」ではどう違うのかが明らかにされているものは少ないようである。原(1986)では、「健康な美人」「健康的な美人」のような例を挙げ、「健康な」は「病気ではない」状態を言い、「健康的な」は「頹廢的でない」という意味になることに触れていることが興味深い。しかし、「健康的な美人」とは言わないのか、言えるとするれば「健康的な美人」と「健康的な美人」はどう違うのか、「-的φ」と「-的な」の使われ方の違いについては明らかではない。高橋(2005)は、語基がいわゆる形容動詞であるものに「的」が添加しにくい理由を考察することを第一の目的とした研究の中で、「男性的な行動」「男性的行動」及び「女性的な性格」「女性的性格」のように、「な」が有るか無いかで多少なりともニュアンスが異なることに触れている。その根拠の一つとして、両表現が同じ意味を持つと仮定するなら使用頻度もほぼ同じであるという論理から、ウェブページで検索した結果、「男性的行動」は約4,000件ヒットしたのに対し「男性的な行動」は33件しかなく、「女性的性格」は約5,000件ヒットしたのに対し「女性的な性格」は132件しかなかったとしているが、検索結果の違いは検索対象がウェブページであったということも起因しているかもしれない。また、使用頻度の多少が両表現に意味の違いがあるという仮説を実証するためには、さらに文脈の中での使われ方を考察する必要があると思われる。

そこで、本稿では、高橋(2005)が言及した「男性」及び「女性」を語基の一例として取り上げ、「-的」の使われ方・現象を言語資料(corpus)の統計的調査から形態的に観察し、抽出された例の分類を試みる。また、「男性的(な)」「女性的(な)」¹⁾の各々が「男らしい」「女らしい」と置換可能かどうかという観点から、語基「男性」及び「女性」を持つ「的(な)」自体の意味を細かく考察した上で、「-的φ」と「-的な」に意味的な違いがあるかどうかを実際の文脈により検証する。さらに、「男性的(な)」「女性的(な)」が使用されている文の主語や前接する表現から各々に加味される意味を見出す。「男性的(な)」と「女性的(な)」を取り上げるにあたっては、それらの間に性差から生じる意味の違いなどの問題があることは承知しているが、本稿では、それを深く考察することを目的としていない。

2 形態的に見た「-的」

2.1 臨時一語について

単語の認定に関しては、さまざまな立場があるが、鈴木(1972)は《てにをは》のような、いわゆる《助詞》や《助動詞》については、それらをともなった形を原則として動詞、形容詞、名詞の変化形(形態論的な形)と位置づけ、単語と区別し、単語内部の要素(語幹、語尾、文法的な接尾辞、複合語の成分)は単語の語彙的、文法的な発達過程で分化した単位で、単語を前提としていると述べている。

本稿では分析にあたり、調査の対象とした「男性的な」「女性的な」について、自立しうる単語「男性」「女性」を語基に接尾辞「的」がつき、語幹である「男性的」「女性的」

接尾辞「的」に関する一考察－「男性的（な）」と「女性的（な）」を例に－（原田 朋子）

に「な」が活用語尾として備わっているものであるととらえる。一方で、活用語尾「な」がないタイプについては、遠藤（1984）では「的」の派生語の「な」がつかないものとしてゼロ型と呼んでいるが、本稿では、「-的 ϕ 」と表す。

ところで、「-的 ϕ + 体言」のように「-的 ϕ 」をともなった合成語のような単語の認定については単純にはいかないのが実状である。宮島（1994）は、日本語の単語の認定のうえで、いちばんむずかしいのは、膠着語的な部分ではなく、孤立語的な部分であり、具体的には助詞・助動詞のつけはなしではなく、「米東部時間十八日午前七時三十三分」といった、名詞的成分（おもに漢語）が助詞・助動詞をともなうことなしに、長々と続いている部分であると述べている。漢語がつぎつぎにつみかさねられてできた長い合成語も、多くはこのようなものであろうとしながら、次のような例を挙げ、「-的（な）」をともなった単語について分析している。

- A 近代的生活様式導入（にふみきった）
は、その固定性において、
- B 近代的な生活様式の導入
というのと、ほとんどかわりない。しかし、Aを構成する単位は、文のなかで、Bの3単位ほど自由にふるまうことはできない。
- B' きわめて近代的な生活様式の導入
がいえても、
- A' きわめて近代的生活様式導入
とはいえないから、「近代的」と「生活様式」とのむすびつきはかたいのである。もっとも、
- A'' 近代的な生活様式導入（にふみきった）
とはいえそうだから「生活様式」と「導入」とのむすびつきはゆるいとみられる。しかし、
- a 近代的な技術導入（にふみきった）
は、もしありうるとしても、
- b 近代的（な）技術の導入
にくらべて、かなり不自然である。要するに、ながい漢語連続は、合成語的なものから連語的なものまで、いろいろな段階のものがありうるのである。

また、宮島（1994）では、上記例の「近代的生活様式導入」のような表現がまったく特殊な例だというわけではないことをしめすために、朝日新聞1983年6月19日号から、単語を簡単にわけるのがむずかしい例をいくつもしめし、その中で「世界的科学者、医学者など」のように「-的 ϕ 」をともなった表現も例に挙げている。そして、典型的な単語はどのような基準をもってきても、だれがみても、まちがいなく単語とみとめられるようなものであると述べている。

新聞を対象とした「-的（な）」の使用実態の調査および分析については、遠藤（1984）、

山下(1999)に詳しく、新聞には活用語尾の「な」がない「的」の派生語が多く使われていることが明らかになっているが、新聞や専門書には、文章に効率的な情報伝達にふさわしいスタイルや表現の簡潔さが求められるからであろう。

林(1997)は、日本語という言語体系の中に長く存在し続ける単語がある一方で、その時その時の必要によって生まれ、すぐに消えて行く単語があり、それらを「臨時一語」と呼び、それらが特に新聞記事の中に多く見られると指摘している。石井(2007)も、ハンス・エガース(1973)の言葉を引用し、ドイツ語では「数個の、ときには多数の名詞が結合して1個の文成分を作りあげる」“Blockbildung”(ブロック構成)や形式から言えば合成語であるが、《未定着の語結合》である“Augenblickskompositum”(即席合成語)といった表現手段がとられており、それと同様のことが日本語にもあてはまると述べている。石井(2007)は、林(1997)と同じく、それらを「臨時一語」と呼び、臨時一語の認定について、臨時的であるかどうかは、その結びつきが辞書類に立項されていないということで間接的に判断するほかないとしている。また、臨時一語は、もとの単語列に復元することができるものであると考えている。

以上のことから、本稿において、後接する語をともない連体修飾としてはたらく「男性的 ϕ 」「女性的 ϕ 」は臨時一語を形成しているのではないかと仮定して、形態的な考察をすすめる。

2.2 調査対象

本分析では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」より「男性的」「女性的」を含む前後文脈の文字数100からなる文章を考察対象とした。対象のジャンルによる偏りを軽減するため、新聞・書籍・雑誌・白書・教科書・広報誌・ウェブページを選択し検索した。

2.3 「男性的 ϕ 」「女性的 ϕ 」と「男性的な」「女性的な」に後接する語の種類

調査対象の中から、まず「-的 ϕ 」と「-的な」を抽出し、使われ方の違いを考察した。その結果、例えば「男性的・女性的役割」や「女性的なやさしい菩薩」のような並列の使われ方は除いて、非並列で連体修飾としてはたらく「-的 ϕ 」「-的な」に後接する語は全て体言であり、143例中「男性的 ϕ +借用語」が24例、「男性的な+借用語」及び「男性的な+固有語」は計80例確認できた²。また、129例中「女性的 ϕ +借用語」は18例、「女性的な+借用語」及び「女性的な+固有語」は計68例見られた。それぞれに後接する語は【表1】のとおりである。後接する語の後ろに記した()括弧内の数字は用例数を示したものである。

【表1】から、「男性的 ϕ 」「女性的 ϕ 」に後接するものは、漢語が中心の借用語で、固有語と結びつくものが見られなかったことが分かる。林(1987)は、新聞で漢字をたくさん使って、手っ取り早く意味を合成し、各要素の間の論理関係は深く追究しな

いというタイプの文章が出来てくることにより、臨時一語が生まれることになることと述べているが、「男性的φ」「女性的φ」も後接する語と結びついて「漢語＋漢語」という臨時一語を生み出しているのではないと思われる。また、【表1】の「男性的主体、男性的美德、男性的原理、男性的凝視…」 「女性的原理、女性的要素、女性的側面…」のような合成語は『日本国語大辞典』にも『学研国語大辞典』にも一例も立項されておらず、さらに、これらの「男性的φ＋体言」「女性的φ＋体言」の用例ひとつひとつの「φ」の部分に活用語尾「な」を添加しても、さして不自然になる語はないように思われる。「－的」の語基全般に言えることではないが³、「男性的」「女性的」については、活用語尾「な」を持たない「男性的φ＋体言」「女性的φ＋体言」のような合成語を先に仮定したとおり、活用語尾「な」がない「臨時一語」と位置づける。

【表1】「男性的φ」、「男性的な」、「女性的φ」、「女性的な」に後接する語（および語基）

	後接する語（および語基）
男性的φ＋借用語（漢語）	主体（3）、美德（2）、原理（2）、凝視（2）、魅力（2）、風貌（1）、要素（1）、感覚（1）、発想（1）、思考（1）、成熟（1）、勇氣（1）、葉姿（1）、主体性（1）、意志（1）、世界（1）
男性的φ＋借用語（外来語）	イメージ（1）、アイデンティティ（1）
男性的な＋借用語（漢語）	傾向（4）、部分（3）、魅力（3）、性格（2）、肉体（2）、面（2）、景観（2）、特質（1）、機能（1）、身体特徴（1）、風格（1）、威容（1）、迫力（1）、力量感（1）、反応（1）、印象（1）、視点（1）、悔恨（1）、関心（1）、決意（1）、通念（1）、作業（1）、言語（1）、表現（1）、書風（1）、文章（1）、色彩（1）、肢体（1）、葉姿（1）、紅梅仙（1）、人物（1）、太陽王（1）、天皇像（1）、優雅さ（1）
男性的な＋借用語（外来語）	アニマ（2）、パワー（1）、ポーズ（1）、タッチ（1）
男性的な＋固有語（和語）	もの（5）、立場（2）、考え方（2）、考え（2）、胸（2）、姿（1）、体つき（1）、造り（1）、力（1）、ところ（1）、部屋（1）、感じ（1）、人（1）、男（1）、魂（1）、剣（1）、山（1）、香り（1）、匂い（1）、味わい（1）、力強さ（1）、荒々しさ（1）
女性的φ＋借用語（漢語）	原理（2）、要素（1）、側面（1）、特性（1）、性分（1）、存在（1）、美点（1）、魅力（1）、思考（1）、価値観（1）、英知（1）、発想（1）、凝視（1）、天使（1）
女性的φ＋借用語（外来語）	パワー（1）、ライン（1）、ナルシズム（1）
女性的な＋借用語（漢語）	面（8）、部分（4）、性格（2）、印象（2）、魅力（2）、感じ（2）、要素（1）、側面（1）、雰囲気（1）、資質（1）、本性（1）、脳（1）、身体特徴（1）、体姿（1）、感性（1）、優美さ（1）、症状（1）、欲望（1）、悲鳴（1）、衣装（1）、天使（1）、宗教（1）、山容（1）、山谷（1）、紅明（1）
女性的な＋借用語（外来語）	スタイル（1）、フォルム（1）、イメージ（1）、センス（1）、エスプリ（1）、ロマンティック（1）、イヤリング（1）
女性的な＋固有語（和語）	もの（4）、ところ（2）、こと（1）、顔つき（1）、顔立ち（1）、肌（1）、眼差し（1）、考え（1）、考え方（1）、やり方（1）、着こなし（1）、方（1）、女（1）、魂（1）、やさしさ（1）、恥じらい（1）、美しさ（1）、香り（1）、けやき（1）

【表1】から、「男性的な」「女性的な」には借用語だけでなく、固有語が多く後接することも明らかである。なお、固有名詞は【表1】から除外したが、実際の用例には「男性的な」に「ヨハネ」や「岩倉具視」、「女性的な」には「ヨハネ」や「三条実美」のような人名が後接する例が見られたことも「男性的 ϕ 」「女性的 ϕ 」とは異なる点である。

以上、「男性的な」「女性的な」は「男性的 ϕ 」「女性的 ϕ 」と比べ、文の中での他の単語との結びつきやすさ、固定性において比較的自由で、後接する語種も「男性的 ϕ 」「女性的 ϕ 」より範囲が広いようである。

2.4 「男性的」「女性的」の後接形態

遠藤（1984）は、「的」のつく派生語の使われ方を実際の文章の中で調べ、次の①から⑧を挙げている。

遠藤（1984）の分類：

①〇〇的+体言	(例) 軍事的状況
②〇〇的+な+体言	短期的な勝利
③〇〇的+に+用言	科学的に指摘する
④〇〇的+用言	比較的安全だ
⑤〇〇的+〇〇的+体言	肉体的・精神的ストレス
⑥〇〇的+〇〇的+な+体言	総合的・多重的な取り組み
⑦〇〇的+〇〇的+に+用言	対立的・対抗的に意識している
⑧〇〇的+と	個性的という美名に…

また、遠藤（1984）は、

①は大勢においては一般形容動詞とは異なる用法である。①のような場合「軍事的な状況」とも言うが、一般形容動詞では、たとえば「優雅な生活、豊富な知識」を「優雅生活、豊富知識」とすることはできない。

としている。遠藤（1984）の①は、本稿における「-的 ϕ 」をともなった臨時一語だと改めて定義したい。

次に、本分析で「-的」に後接する形を抽出した結果を【表2】に示す。【表2】では、臨時一語とそうでないもの、「-な」「-に」「-だ」等の語尾変化を持つものとそれ以外のもの、並列と非並列、連体修飾と連用修飾などの基準で分類し作表を試みた。【表2】から「-的」に後接する形は20種類以上見られ、遠藤（1984）にまとめられている8種類より比較的多く認められたが、「男性的」が計143例、「女性的」が計129例という用例数の少なさから、用例数を増やせば、これらの他にもさらに多くの形が現れる

可能性もある。

【表2】から、臨時一語も含め、「-的」の語尾変化および後接する全ての形の中で、「-的な」に属する例が圧倒的に多く見られることが明らかになった。つまり、「-的」は、語基「男性」「女性」に関して述べると、連体修飾としてはたいて、活用語尾「な」がある形態での使われ方が最も多いと言える。一方で、「-的φ+体言」の形で、臨時一語を形成するものは全体の20%弱に満たなかった。この結果は、高橋（2005）がウェブページでヒットしたと述べている結果の数と全く異なるものとなった。その違いは、やはり高橋（2005）の検索対象がウェブページだったことと関係があり、ウェブページにはホームページのような情報発信を主とした目的で書かれているものが多く見られ、臨時一語が使われやすいという性質を有しているのではないかと推測される。その他、【表2】から、用例数が多いわけではないが、例えば「-的φ/な/で+-的」のように並列の形で使われる例も見受けられた。

他の形態に鑑みて【表2】の結果をさらに詳細に記述すると、以下のようなことが言える。活用語尾「な」があり名詞を修飾限定する規定用法が最も多く見られ、「-的だ/である/であった/だった」などの形で述語としてはたらく用法も「男性的」が11例、「女性的」が18例と比較的多く見られた。「-的に+用言」は「男性的」が3例、「女性的」が4例の計7例のみだったが、用例文を分析した際、状態性の動詞や、「なる」や「見える」のような典型的な動作動詞ではないものを除外すると、典型的な動詞につくとと言えるものは次の（i）（ii）のような僅かな例しか見られなかった。すなわち「男性的に」「女性的に」のように動詞述語を修飾限定する修飾用法としての形態は認められるものの、「男性的」及び「女性的」という語には副詞性が少ないのではないかと思われる。

（i）ここはひとつ男性的にふるまわなくてはいかんぞいかんぞッ、という意志も張ってくる。

『本家スバラ式世界』原田宗典（著）主婦の友社、1994年

（ii）彼の行動はどの一点を切りとつても最も男性的に、ズバツと割り切れているからだろう。

『人生の実りの言葉』中野孝次（著）偕成社、1999年

さらに、【表2】には、「男性的+には」「女性的+には」の形態も認められたが、本稿ではこれを提示的なものとして【表2】に挙げる。

宇佐見（2001）は、次のa.b.c.のような例を挙げ、これらはa'.b'.c'.のように「-的」を省いてしまっても文の意味は変わらないとしている。

a. 気持ち的には理解出来る。（論理としては納得できない）

b. 髪の毛、長さ的には変わってないけど、色が変わったんだ。（長さに関しては）

- c. ボク的にはそれが1番よい方法だと考えた。

- a'. 気持ちは理解できる。
- b'. 髪の毛、長さは変わってないけど、色が変わったんだ。
- c'. 僕はそれが1番よい方法だと考えた。

宇佐見(2001)は「わたし的には」「気持ち的には」は、その文の行為あるいは状態の説明の「範囲規定」、さらに最近では主語の婉曲化に役立っていると述べている。このような「-的には」の用法については、小出(2003)、趙(2008)にも詳しく言及されているが、本稿の分析において出現した「男性的には/男性的に」「女性的には」は、以下の(iii)から(vii)の5例のみであった。趙(2008)によると、「-的には」の語基が漢語名詞の場合、和語よりは許容度が高いようだが、本分析では、『Yahoo! 知恵袋』からしか用例が抽出されず、特殊なジャンルの文章にしか見られなかったことから、「男性的に/には」「女性的に/には」が今後一般化され、定着していくのかどうかは現在のところ不明である。(iii)～(vii)の「男性的に/には」及び「女性的には」は、「男性/女性の観点から」「男性/女性から見て」の意を表し、主語の婉曲化にも関わっていくと思われるため、「-的には」の提示的なものとしておく。

- (iii) 男性的には貴方が酔って自分を失うよりましだと思ってると思います。

- (iv) こういう場合男性的にはどのように考えているものなのでしょうか？

- (v) 私的には構わないのですが、男性的にこの回数ってどうですか？

- (vi) それにある説によると、男性的には女性から告白されるより、自分から告白したいそうですよ。

- (vii) 女性的には男の人から言ってきてほしいものなんですけど・・・。

(iii)～(vii)は全て『Yahoo! 知恵袋』Yahoo!、2005年

接尾辞「的」に関する一考察－「男性的（な）」と「女性的（な）」を例に－（原田 朋子）

【表2】「-的」の後接形態の分類

<臨時一語>

		非並列				並列			
		文例	男性的	女性的	文例	男性的	女性的		
φ	連体	○○的 + 体言	男性的意志	24	18	○○的 + ○○的 + 体言	男性的・女性的役割	1	1
	連用								

<臨時一語でないもの>

		非並列				並列				
		文例	男性的	女性的	文例	男性的	女性的			
～な	連体	○○的な + 体言 (みとめ形式)	男性的な人 女性的な感じ	80	71	○○的 + ○○的な + 体言	男性的、女性的な脳 の持ち主	1	1	
		○○的な + 体言	男性的なるもの 女性的なるもの	2	4	○○的な + イ形容詞 + 体言	女性的なやさしい菩 薩	0	1	
		○○的でない + 体言 (うちけし形式)	それはたいてい甚だ 女性的でない女性で ある。	0	1	○○的な + ナ形容詞 + 体言	男性的な、豪壮雄偉 な武将	1	2	
	連用				○○的な + (連体修 飾) + 体言	きわめて男性的な、 行動的であり、ある 種の殺さを含んだ文 章	2	0		
～に	連体									
	連用	○○的に + 用言	男性的にふるまう。 / 女性的にもじもじ した。	3	4	○○的、+ ○○的に + 用言		0	0	
～だ/ ～だった		○○のだ。/ である。 / でしょう。	もともと女らしい女 は、むしろ男性的で ある。/ 南都の僧衆は心情も 女性的である。	8	15	○○的あるいは○○ のだ。	男性のアニマが男性 的あるいは両性具有 的である。	1	0	
		○○的なのだ。	かれらのほうがわれ われより男性的なの である。	1	1	○○的で + ○○的 だ。	長州は女性的であ り、薩摩は男性的で あると云う。	1	0	
						○○かつ○○のだ。 ○○で + ○○のだ。	ロフトのインテリア は大胆かつ女性的 だった。 アイダさんはきわめ てデリケートで女性 的である。	0	1	
～で						○○的で + ナ形容詞 + 体言	男性的で大胆なツッ チ	2	0	
						○○的で + イ形容詞 + 体言	男性的で荒々しい文 化	1	0	
						○○的で + (連体修 飾) + 体言	男性的で本性剥出し の感じ	4	0	
						○○的で + ○○に + 用言	男性的で危険に見え る	1	0	
		○○的で + a	山としては、北岳が 男性的で、映画「マー クスの山」の舞台と してはぴったりだ。	4	2	○○的で + ○○的 だ。	男性的であり威壓的 である。	1	2	
～と		○○的 + と	男性的と云っても …。/ 女性的と呼んでいる。 。	1	2	○○的 + ○○的 + と いわれ	貴族的、女性的とい われ…。	0	1	
φ		○○的 + 用言	例なし	0	0				(形容詞 副詞)	
～には/ ～に	連体									
	連用	○○的 + には/ ○○的 + に	男性的には女性から 告白されるより、自 分から告白したいそ うですよ。/ 女性的 には男の人から言っ てきてほしいものな んですが…。	4	1					(提示的 なもの)

3 意味的に見た「一的(な)」について

3.1 先行研究に見られる「一的」の意味

遠藤(1984)は接尾辞「的」の意味を①から④のようにまとめている。

- ① … に関する、… についての、上
- ② … のような性質を有する。… らしい。… に似る。
- ③ … の状態にある。
- ④ … としての、… である。

他方で、藤居(1957)は、「的」の意味は「らしさ」であり、ある性質をもつこと、ある傾向にあることで、「そのもの」ではないと述べ、「的」は接尾語独特の使われようで、意味の外延がひろがりすぎていると述べていた。

そこで、本稿では「男性的(な)」「女性的(な)」が各々「男らしい」「女らしい」と置換可能かどうかという観点から、「男性的(な)」「女性的(な)」における「一的」の意味を考察し、遠藤(1984)にまとめられている「的」の①～④と同じような意味を持つのか、あるいは他の意味も持つのかも見ていく。

3.2 分析対象

本分析では、『新潮文庫の100冊』『新潮文庫の絶版100冊』に収録されている訳文を除いた現代⁴の日本作品を対象に「男性的」「女性的」を含む例文を抽出し、それをもとに考察を行った。考察前は「現代日本語書き言葉均衡コーパス」も対象にしていたが、現代語の用法として一般的に許容されているかどうか不明なもの、簡易的な訳文を省くため、今回の考察対象を限定した。

3.3 「男性的(な)」から見た「一的」の意味

『学研国語大辞典』には、「男らしい」の意味は、「性質・態度・身体的特徴などに、強さ・たくましさ・潔さなどがあって、いかにも男であると感じさせるようすである。」と書かれている。「男性的(な)」を「男らしい」と置換できるかどうかという観点で考察した結果、「男らしい」と置換できると思われるものは、22例中14例見られた。以下に主な用例を挙げる。例文中の下線および下線上の() 括弧内は、筆者による。

(1) 恋人の凛々しい性格や、その男性的な(男らしい)容貌や、その他いろゝゝな美点が、それからそれと、彼女の頭の中に浮かんで来た。 『真珠夫人』 菊池寛(著)1920年

(2) 青年はその浅黒い男性的な(男らしい)凛々しい顔を、一層引き緊めながら、…。 『真珠夫人』 菊池寛(著)1920年

接尾辞「的」に関する一考察－「男性的（な）」と「女性的（な）」を例に－（原田 朋子）

- (3) 久能が西郷隆盛と綽名をされているのはその男性的な（男らしい） 気質からだけではなくて、二十貫もあろうかというずんぐりした体格にも原因していた。

『都会の憂鬱』佐藤春夫（著）1921年

- (4) 眉が濃く、鼻筋も通っていて、なかなかの好男子である。こういう人物は、酒場の玄人女にもてる……と箒は思った。ただ時々、会話の途中で、瞑想するかの如く、癖のように眼を閉じるのだけは気になったが、声音は男性的で（男らしく）、まことに歯切れがよい。

『女の警察』梶山季之（著）1967年

(1) ～ (4) では、「男性的（な）」は、容貌、顔、気質、声がまさしく「男らしい」ことを表している。

一方で、「男らしい」に置換できないと思われるものには以下のような例が見られた。例文中の（ ）括弧内の*印は、置換できないことを筆者が示したものである。

- (5) 生理的に熟しつゝある平一郎の男性的（*男らしい） 目覚めがああ恐る可き遊蕩と墮落に彼を導く暇のなかつたのは確かに平一郎の幸福と云はねばならなかつた。

『地上』島田清次郎（著）1919年

- (6) その異常さは二月十一日の第一、第二の行為が完了していない事から来る男性的な（*男らしい） あせりであったように思われる。そして二月十三日の牧山研究室に於ける構曳きに於ても、牧山氏の性行為は完了することができなかった。

『七人の敵が居た』石川達三（著）1980年

(5) は男としての目覚めを表しており、(6) も言うなれば、男であることによる、男としてのあせりを表していると思われる。つまり、「男性的（な）」は「男としての」や「男であることによる」等の意味を有していると考えられる。

次の (7) のような例も「男らしい」に置換できない。

- (7) 世津子を相手にむきになったところで、仕方がないのだ。

「私は、どうしても男性的（*男らしい） ね」

世津子の飛躍には、ちょっとついていけない。何をいうつもりなのか。

『顔』丹羽文雄（著）1960年

(7) は「男らしいね」というよりも「男みたいね」と言った方が合っている。なお、この例文は「男性的」が世津子自身（女性）について言及されている。このような場

合は「男性的（な）」は「男みたい」という意味を表していると思われる。

また、次の（8）（9）（10）のような例も「男らしい」に置換できない。

（8）彼は朝六時に会社へ出る。快い男性的な（*男らしい）労働と無邪気な天真な友人達との交誼のため彼はすべてを忘れて感謝と祈念のまゝに働く。

『地上』 島田清次郎（著）1919年

（9）ほがらかな、よいお天気なり。雨戸を繰ると白い蝶々が雪のように群れていて、男性的な（*男らしい）季節の匂いが私を驚かす。雲があんなに、白や青い色をして流れている。

『放浪記』 林芙美子（著）1930年

（10）ベエトオヴェンという男性的な（*男らしい）音楽家に対して、モーツァルトという女性的な音楽家、という幾度となく繰返されて来た通俗な伝説を、僕は真面目には受取らないが、モーツァルトの世界にはベエトオヴェンの一生を貫いた「フィデリオ」の思想はない、カタルシスの観念はないと言える。『モーツァルト』 小林秀雄（著）1946年

（8）は男らしい労働ではなく、「男に合った」あるいは「男向きの」労働を表している。（9）はからっとした、さっぱりした匂いなのか、どのような匂いかは定かではないが、男を思わせるような（季節の）匂いを表しており、この場合の「男性的（な）」は「男を思わせるような」という意味を表している。また、（10）は、ベエトオヴェンが男性的（男らしい）ということを表しているのではなく、ベエトオヴェンの音楽の性質について、例えばモーツァルトの作品がやさしく繊細な女性的なものであるのに対して、ベエトオヴェンの作品は男性的な力強さなどがあることを表していると思われ、「男性的（な）」の意味は、いわば「男性的とされている性質・特徴を持つ」ことを表しているようだ。（8）（9）（10）は、いずれも男性そのものについて言及しているのではなく、人間以外について言及している。

その他、以下の（11）（12）のように「男らしい」と置換可能かどうかははっきり断定できないものも見受けられた。

（11）姑のお吉には凜とした男性的の（?男らしい）気象があつた。彼女は六十を越した老年にも屈しないで、常造の死後は気の弱いお国を督励して、大きな宿屋を営んだ。

『地上』 島田清次郎（著）1919年

（12）同じ莊田家へ嫁ぐのなら、息子さんよりもやっぱりお父様のお嫁になりたい。男性的な（?男らしい）実業家の夫人として、社交界に立つて見たいとかう云つてゐるのです。

『真珠夫人』 菊池寛（著）1920年

接尾辞「的」に関する一考察－「男性的（な）」と「女性的（な）」を例に－（原田 朋子）

(11) は姑のお吉に男らしい気性があったというよりは、男性のような、男っぽい気性があったと言った方が合っているように思えるが「男らしい」と全く言えなくもなさそうだ。なお、(11) の「男性的(の)」は、出版年から見ても、近代の「-的(の)」の使われ方を残しているものだと思われる。(12) は登場人物（の瑠璃子）がお父様のことを男性的（男らしい）と述べているというよりも、むしろ実業家という仕事が男性的だということを述べている場合、「らしい」、「ような」、「っぽい」などの、他のどんな表現よりも「男性的」をそのまま使うのが最も適しているように思われる。

以上、「男らしい」と置換できるか否かという観点から「男性的（な）」の意味について考察した。その結果、次のⅠ. ①のように「男らしい」と言い換えられ、藤居（1957）が述べていたとおり、たしかに「らしさ」の意味を表すものも多かったが、それ以外にも「男性的（な）」には多様な意味が認められた。

Ⅰ. 男性について言及しているもの

- ①容貌、顔、気質、声などが男らしい：例文（1）（2）（3）（4）
- ②男としての、男であることによる：例文（5）（6）
- ③「男性的」と表現するのが適している：例文（12）

Ⅱ. 女性について言及しているもの

- ④男みたい：例文（7）
- ⑤男性のような：例文（11）
- ⑥男っぽい：例文（11）

Ⅲ. 人間以外について言及しているもの

- ⑦男に合った、男向きの：例文（8）
- ⑧男を思わせるような：例文（9）
- ⑨男性的とされている性質・特徴を持つ：例文（10）

3.4 「女性的（な）」から見た「一的」の意味

『学研国語大辞典』には、「女らしい」の意味は、「[やさしさ・しとやかさ・こまやかさなど]女性としての特質があらわれている。女にふさわしい。」と書かれている。「女性的（な）」を「女らしい」と置換可能かどうかという観点で考察した結果、「女らしい」と置換できると思われるものは、17例中わずか2例だった。以下に用例を挙げる。

(13) いやとても、吾々輩には資力がつづきません。バスケットボールは、危なく脱げそうな「忠臣孝子」の仮面を、女性的な（女らしい）謙譲に依ってやっと繕った。

『太陽のない街』徳永直（著）1929年

(13) は、謙譲を女性的な、女らしいと表現しているようだ。

(14) 「そうです。もうずいぶん長いあいだの二人暮らしですな。私はずっと世間とかかわっておらんもので、あの子にもそういう癖がついてしまって、私としても困っておるのです。外の世界に出ようとせんのですな。頭も良いし体もきわめて健康なんです、外界にかかわろうとせんのです。若いちはそれではいかん。性欲は好ましい形で解消せねばならんです。どうです？あの子には女性的（女らしい）魅力が備っておるでしょうか？」
（※「あの子」は、話者の孫娘）

『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』村上春樹（著）1985年

(14) のように「女らしい魅力が備わっているか」と他者に尋ねる時に、このストーリーのようにお爺さんが自分の孫娘について「女らしい」という表現を使うかどうかを考えると「女性的（な）」を使った方が適しているかもしれないが、意味は「女らしい」魅力があるかどうか尋ねていると考えてもいいように思う。

次に、「女らしい」に置換できないものについて見ていく。

(15) ベエトオヴェンという男性的な音楽家に対して、モーツァルトという女性的な（*女らしい）音楽家、という幾度となく繰返されて来た通俗な伝説を、僕は真面目には受取らないが、モーツァルトの世界にはベエトオヴェンの一生を貫いた「フィデリオ」の思想はない、カタルシスの観念はないと言える。『モーツァルト』小林秀雄（著）1946年

(15) は (10) の例の再掲であるが、(10) で既に述べたとおり、音楽の性質について、モーツァルトの作品が、例えば、やさしく繊細なといったふうに、女性的なものであることを表しており、モーツァルトが女性的であるということを表しているのではないと思われる。したがって、「女性的（な）」の意味は、「女性的とされている性質・特徴を持つ」と言えるだろう。

(16) 庭には葉桜を背景にして、大和、国分尼寺の遠州系の庭を縮模した、女性的で（*女らしく）温雅な池泉が望まれる。『花は勁し』岡本かの子（著）1993年

(16) も (15) と同様に「女性的とされている性質・特徴を持った」温雅な池泉を表し、女性的と表現することにより、やわらかい、やさしい曲線の風景が思い浮かぶ。

(17) 「彼」を守ろうとする「意志」が「彼」に直接危害を加えようとしているわけでもない人間を、ただ「彼」が社会生活を営む上で不都合だからというのであっさり殺してしまうといった盲目性は、どちらかといえば女性的（*女らしさ）であり、母親のものであ

接尾辞「的」に関する一考察－「男性的（な）」と「女性的（な）」を例に－（原田 朋子）

だが、あいにく「彼」の母親はすでに死んでしまっている。

『エディプスの恋人』筒井康隆（著）1977年

(17) も (15) (16) のように「女性的とされている性質・特徴を持つ」に近い意味だが、(15) (16) とは違い、良いイメージの「女性的（な）」ではなく、悪い意味で女性的だと述べている。これは「女性特有の」という意味にも受け取れる。

(18) 導かれた一室は、寄宿生の母や姉が、訪ねてくる応接室らしかった。本館にも、男性は、あまり出入しないが、ここは、それ以上らしかった。私は、その暗い、女性的な（*女らしい）室から、早く逃げ出すためにも、急いで、荷物を解き、舎監の検分を仰ぐ必要があった。スリッパ、ズロースの類まで、私は、鞆から引き出して、テーブルの上に列べた。

『娘と私』獅子文六（著）1956年

(18) も (17) と同じく、良いイメージで「女性的（な）」が使われているのではない。男性の出入りが少ないため、男性の気配が全く感じられない室、つまり「女性的（な）」は「女を思わせるような、女性の気配しか感じられない」のような意味だと思われる。

(19) 熊はノロノロと起き上がると彼の方に向って、別に顔を見ることもなく小さい眼を静かに見据えていたが、突然にヒョイと顔を彼の正面に向け変えた。その眼には女性的に（*女らしく）見える嫉妬めいたムラムラしたものがざらついていて、それが電力的に彼に何か重大さを暗示した。

『ゴリ』室生犀星（著）1918年

(19) は、熊の目つきについて女性的だと述べているが、意味としては、「女性に似ている」あるいは比喩的に「女性を連想させる」という意味を表しているように思われる。

(20) その学生たちのどれもが、温和で、秀才風で、どちらかという、女性的で（*女らしく）もある青年たちだった。

『娘と私』獅子文六（著）1956年

(21) この安楽と星とは、アメリカでの苦学時代からの友人だった。星よりは二歳の年長だが、女性的（*女らしい）ともいえるほど温厚で慎重な性格であった。

『人民は弱し 官吏は強し』星新一（著）1967年

(22) 「あなたたち、ずいぶん女性的な（*女らしい）のね。お鍋に興味あるなんて」
信子が言った。

「別に。純粹に科学的興味ですよ」

食事の席では、信子が、二人の男の子たちのためにビールを一本つけてやった。

『太郎物語 高校編』曾野綾子（著）1973年

(20)～(22)は、いずれも男性に対して「女性的(な)」を用いているが、(20)(21)は、温和で秀才風、温厚で慎重な性格という良いイメージで「女性的(な)」が用いられており、強いて言うなら「女性のような」の意味であるが、「女性的(な)」が最も適した表現であるように思われる。(22)の「女性的(な)」は「女らしい」とは言えないが、「女っぽい」に置換しても文の意味は成り立つ。しかし、これもマイナスの評価で「女性的(な)」を用いていることになるため、話者である信子がマイナスの評価をもって言っているのであれば、「女っぽい」よりも「女性的(な)」を用いる方が合っているように思われる。

一方で、次の(23)は、「女らしい」と置換できず、「女っぽい」と言い換えられ、マイナスの評価で「女性的(な)」が用いられているようである。

(23)「H村の合宿も悪くないが、どうも女気がなさすぎますね。」

「生意気言いやがる。寮と同じじゃないか。」

「寮なら表へ出て行きさえすればね。此所は村まで行ったって、ろくなメツチェン一人いないんだから。」

「当たり前だ。そう言えば藤木は女性的な(*女らしい)感じがするね、男ばかり見ているせいかしらん。」

「あれは子供なんですよ、まだおっばいの匂がしている。けれど不思議だな、どうしてああ頭ばっかし発達しちゃったのかな。」

『草の花』福永武彦（著）1954年

上掲の(19)～(23)は、熊や男性に対して「女性的(な)」が使用されており、「女らしい」を表す意味だとするのには全く不自然である。

次の例は、「女らしい」と置換可能かどうか判別が難しいものである。

(24) その頃わたくしが漠然と感じ、今いっそうはっきりと感じますことは、汐見さんはこのわたくしを愛したのではなくて、わたくしを通して或る永遠なものを、或る純潔なものを、或る女性的な(?女らしい)ものを、愛したのではないかという疑いでございます。

『草の花』福永武彦（著）1954年

(24)は「女らしいもの」つまり「女性性」「女そのもの」の意味を表していると受け取れる。

以上、「女らしい」と置換できるか否かという観点から「女性的(な)」の意味について考察した。その結果、次のI. ①のように「女らしい」と言い換えられるものは予想より少なく、「女性的(な)」には以下のような意味が認められた。

接尾辞「的」に関する一考察－「男性的（な）」と「女性的（な）」を例に－（原田 朋子）

I. 女性について言及しているもの

①性質や外見などが女らしい：例文（13）（14）

②女性特有の：例文（17）

③女そのもの：例文（24）

II. 男性について言及しているもの

④女性のような、女っぽいとも言えるが、「女性的」と表現するのが適している：
例文（20）（21）（22）

⑤女っぽい：例文（23）

III. 人間以外について言及しているもの

⑥女性的とされている性質・特徴を持つ：例文（15）（16）

⑦女を思わせるような、女性の気配しか感じられない：例文（18）

⑧女性に似ている、比喩的に女性を連想させる：例文（19）

3.5 本章のまとめ

以上、「男性的（な）」と「女性的（な）」を一例に「-的」の意味を文脈における現象から考察してきた。そこから得られた「-的」の意味には多様性が見られた。しかし、「男性的（な）」「女性的（な）」には、遠藤（1984）が挙げていた「的」の意味の①「…に関する、…についての、…上」や③「…の状態にある」のような意味を持つものは見られず、②「…のような性質を有する。…らしい。…に似る。」に近いものが最も多かった。「男性的（な）」「女性的（な）」を一例に本稿で挙げた意味以外にも、「-的」はさらに多くの意味で使用されていると推測できる。一見対称的と思われる「男性」と「女性」を考察してきたわけであるが、「-的」を「-らしい」のように他の接尾辞に置換したときに、「男性的（な）」においても「女性的（な）」においても、同様に置換できるものと、例えば「男性的（な）」の方のみ見られた「男であることによる、男としての」や「男に合った、男向きの」の意味が「女性的（な）」の方には見られないといったふうに、一方にしか現れていないものがあるということが見出された。これは、「-的」が語基によってさまざまな意味を持つからに他ならないのではないだろうか。つまり、「-的」は単に「-らしい」や「-っぽい」などの接尾辞に置き換えられるものばかりではなく、また「…のような性質を有する。…らしい。…に似る。」や「…としての」以外にも多くの意味を有し、多様性を持っているのだろう。さらには、他のどのような表現を持ってくるより「-的」が最も適している場合もある。史的研究によると、中国語からもたらされた「-的」という言葉は、明治時代に西洋語の翻訳語として用いられるようになったようだが、今や日本語にとけ込み、現代日本語として欠くことができないものとなっている。また、「-的」があることによって、時に

語基の単語の意味を超えて、他の意味を加味していつている場合もある。どのような意味が加味されていつているかは、第5章で、文中での「男性的(な)」「女性的(な)」の関連表現を調べることによって、多少なりとも「男性的(な)」「女性的(な)」の表すイメージを明らかにできればと考える。

4 「一的φ」と「一的な」の意味の違いについて

本章の分析では、用例をできるだけ多く観察するため、『新潮文庫の100冊』『新潮文庫の絶版100冊』に収録されている現代の日本作品に加え「現代日本語書き言葉均衡コーパス」より抽出した用例を対象に考察した。

4.1 「男性的φ」と「男性的な」の意味の違い

本分析の結果、131例中、「男性的な」が女性に関して言及しているものが以下の7例(うち「男性的の」が1例)見られ、「男性的φ」が女性に関して言及しているものが1例も見られなかった点から、高橋(2005)で述べられているように、「男性的な」は女性について言及するケースがあり、「男性的φ」は女性について言及するのにまず使用されないことが抽出数の違いからではなく、実際の用例の分析により確認された。その結果を以下の(25)～(32)に用例で挙げ、示す。用例中の下線および()括弧内は、筆者による。

(25) 姑のお吉には凜とした男性的の気象があった。

『地上』島田清次郎(著)新潮文庫、1919年

(26) 女性は、(中略)自分の男性的な部分のように感じられるものを発展させることをによって、自分の才能や世間での競争を経験するかもしれない。

『女はみんな女神』ジーン・シノダ・ポーレン(著)村本詔司(訳)村本邦子(訳)新水社、1991年

(27) もちろん女性の中にも、男性的な人、経営能力の高い人、働くことが何よりも好きな人がいます。『女が30代で自分を変える生きかた』桜井秀勲(著)三笠書房、1994年

(28) 女性的な身体特徴を持つ男性が同性愛者であると推定される確率の方が、男性的な身体特徴を持つ女性が同性愛者であると推定される確率よりも高いという。

『青年心理学への誘い～漂流する若者たち～』和田実、諸井克英(著)ナカニシヤ出版、2002年

接尾辞「的」に関する一考察－「男性的（な）」と「女性的（な）」を例に－（原田 朋子）

(29) 女性にはこの数は強すぎ、男性的なところがありますから、この点は注意しましょう。

『幸せを呼ぶ赤ちゃんの名前事典』菅原緑夏（著）法研、2002年

(30) 『ローリング』（中島みゆきの歌：筆者注釈）の男性的な歌唱の迫力に圧倒される。

『中島みゆき歌でしか言えない世界』林晃三（著）叢文社、2003年

(31) 私は女性ですが、男性的なものの考え方をする男性脳を持っているようです。

『Yahoo! 知恵袋』Yahoo!、2005年

なお、(32) のように「男性的φ」か「男性的な」なのかは判別できないもので、女性（の作品）に関して言及しているものも見られた。

(32) その作品（お母様の作品：筆者注釈）は、男性的で大胆なタッチで描かれている。

『プラスゾーンに生きる』折戸秀子（著）日本図書刊行会近代文芸社、2001年

4.2 「女性的φ」と「女性的な」の意味の違い

「女性的φ」と「女性的な」の用例 104 例中、「女性的な」が男性に関して言及しているものは計 17 例も見られ、「女性的φ」が男性に関して言及しているものは 1 例のみしか見られず、やはり「男性的な」の場合と同様に、「女性的な」の方が「女性的φ」と比べ、男性に関して言及することが多いことが明らかになった。以下に、例を一部示す。用例中の下線は、筆者による。

(33) 彼（ストロングボウ）は背こそ高いが、赤毛で、雀斑が多く、灰色の目をした女性的な顔つきで、声は弱々しかった。

『欧州連合に賭ける“妖精の国”』波多野裕造（著）中央公論社、1994年

(34) 育ちもよかつたらしく、気品があって、それが女性的な感じを余計濃くしている。とにかくほっちゃん育ちの秀才なのだ。

『やちまた 下』足立巻一（著）朝日新聞社、1995年

(35) いいえ、アニマとは男性の心の中の女性的な部分です。だから、当然、女性の中には存在しないでしょう。

『ユング・コレクション』カール・グスタフ・ユング（著）入江良平（訳）人文書院、2002年

- (36) 男性の場合、花屋さんに勤める方のパターンは大きく分けると、短気な性格の方と、少し女性的な方とのツープターンが多いのではないでしょう。

『花屋が誰も書けなかった「花屋で成功するための本」』村正勇次郎（著）文芸社、2002年

- (37) チーズっぽい男性というのは、どこか女性的なところがある人。

『恋する舌』古内東子（著）双葉社、2002年

- (38) 女性的な身体特徴を持つ男性が同性愛者であると推定される確率の方が、男性的な身体特徴をもつ女性が同性愛者であると推定される確率よりも高いという。

『青年心理学への誘い～漂流する若者たち～』和田実、諸井克英（著）ナカニシヤ出版、2002年

- (39) なにげなくリアシートを覗いたディーラーは、恐持ての業者に似合わず、女性的な悲鳴をあげた。

『野生時代』森村誠一（著）角川書店、2004年

次の(40)は、本分析により抽出された「女性的な」が男性に関して言及している唯一の例である。

- (40) のちに自分を女性的な性分を享け得て、誤って男子に生れた一種の変性漢と、自己分析するような一面も確かに持っていたように思われます。

『近代名作 1017 選への招待』石本隆一ほか（編纂）ぎょうせい、1987年

しかし、(40)には「誤って男子に生れた」と書かれているので、「女性的な」が男性について言及した例としての典型とまでは言えない。

4.3 本章のまとめ

「男性的な」と「男性的な」、「女性的な」と「女性的な」のそれぞれの間、形態的な違いだけでなく、意味的な差異があるかどうかについて、実際の用例の分析から考察してきた。その結果、「男性的な」が女性に関して、「女性的な」が男性に関して言及しているものはほぼ見られず、「男性的な」が女性に関して、「女性的な」が男性に関して言及しているものが確認できた。この結果は、高橋（2005）に触れられていたことと一致している。この分析から、「男性的な」「女性的な」には「男性的な」「女性的な」と比べると、意味的に使用できる範囲の制限があるのではないかとと思われる。このことは他の語基と結びついた「的」についても言えるのだろうか。例えば、「近代設備」と「近代的な設備」のような例においても、「的」と「的な」で意味の差は多少なりとも認められるのだろうか。認められるとすれば、どのような差異があるのかなどは、今後の課題として続稿に譲りたい。

5 「男性的（な）」及び「女性的（な）」の関連表現

「男性的（な）」「女性的（な）」が出現している文中には、それらの前後の文脈にもそれらに関連のある、実に様々な表現が見受けられた。文の主語や、「男性的（な）」及び「女性的（な）」に前接する表現を見ることによって、なにが、どのように男性的あるいは女性的なのか、そのヒントとなる表現がいくつも見られた。本稿 3.5 において触れたように、語基「男性」「女性」にどのような意味が加味されているのか、「男性的（な）」「女性的（な）」の表すイメージについて補足しておきたい。

5.1 「男性的（な）」の関連表現

なにが、どのように「男性的（な）」であるのか、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を対象に、「男性的（な）」の関連表現を調べてみたところ、次の A や B のような語や表現が見られた。

例文の 部分は主語を指す。斜体はどのように「男性的」であるかを表現しているもので、下線も筆者によるものである。

A：主語が男性的の指しているものだと分かるもの（なにが「男性的（な）」か）

(ア) は、野生のカツラの突然変異によってできた現象と思われるが、優雅な姿のシダレヤナギやシダレザクラに比べて雄大であり、男性的な風格を感じさせるといい。『日本の巨樹 100 選』大貫茂（著）淡交社、2002 年

その他、主語になり、なにが男性的かを表していたもの

- インターコンチネンタル・ホテル • コロッセオ • 船 • スポーツカー
- 車体 • 新型 A4(車) • (カメラの)シャッター音 • 地藏菩薩像の面相
- 本尊十一面観音立像 • 宝剣岳 • 北岳 • 王ヶ鼻 • 月 • 岩場 • 紅梅仙
- 女 • 海に生きる人びと • 傭兵隊長の激しく厳しい力強さ • セックス
- 「ここに来い」(という表現) • 「勇気」(という言葉) • 織田信長
- 西郷と大久保 • 薩摩

『学研国語大辞典』に「男性的」は次のように記載されている。

- ① [強い、勇気がある、さっぱりしているなど] 男にふさわしいようす。いかにも男らしいようす。
- ② [ひゆ的に、風景などが] 堂々としているようす。雄々しいようす。「一な剣岳の姿」

たしかに人物、山、建造物などの風景が「男性的（な）」と表現されているものが確認できた。他にも、例文（ア）のようにシダレカツラや紅梅仙などの植物、船や車などの乗り物、薩摩のようなところ、「ここに来い」などの表現、像・・・といったふうに、様々なことがらが「男性的（な）」と表現されるようだ。

B：前後の文脈に現れ、男性を思わせる表現（どのように「男性的（な）」か）

(イ) 名花「紅明」の同坪品種で、力強い男性的な葉姿の草に絢爛豪華な大輪花を咲かせる。

『新しい春蘭』平野綏（著）八坂書房、1995年

(ウ) 海に生きる人びとは、気っぷよい男性的な性格にかかわらず、・・・。

『マラッカ』鶴見良行（著）みすず書房、2000年

その他の例：

- 冷静で論理的に物事を考える
- (山) 肌が荒れて
- 能動的で
- 丈夫で繁殖はよい
- 髭面の
- 力強い
- 重爆機のスタートを想わせる程
- 雄大であり
- 本性剥出しの
- 行動的であり、ある種の毅さを含んだ
- 主導権を握る側の
- 荒々しい
- 父的
- 強靱で

例文（イ）（ウ）のように、「力強い」や「気っぷよい」といった、いかにも男らしいようす、男にふさわしいようす、堂々としているようす、雄々しいようす」のような男性を彷彿させる表現とともに「男性的（な）」が使われていた。これらの表現は、「男性的（な）」のイメージとも言えるのだろう。

5.2 「女性的（な）」の関連表現

前項の「男性的（な）」と同様に、「女性的（な）」の前後の文脈の表現を調べてみたところ、次のAやBのような語や表現が見られた。

A：主語が女性的の指しているものだと分かるもの（なにが「女性的（な）」か）

(エ) 一般に、長州は女性的であり、薩摩は男性的であると云う。

『翔ぶが如く』と西郷隆盛』南條範夫（著）文芸春秋、1989年

その他、主語になり、なにが女性的かを表していたもの

- インテリア
- パステル(カラー)
- ウィーンの宿(の部屋)
- たまご
- (十一面観音立像の)ふくよかな乳とななめにひねられた肉感的な腹部から腰にかけての豊

接尾辞「的」に関する一考察－「男性的（な）」と「女性的（な）」を例に－（原田 朋子）

- 艶さ •(描き出される)天使の姿 •観音様 •普賢菩薩
- (菩薩である)文殊 •仏教・キリスト教・回教の三大宗教 •イスラム教
- 丁寧な言葉づかい •語調 •ハスキーな声 •意識 •微笑み
- (詩人ゲーテがつくり上げた『ファウスト』のおしまいの)ことば
- 馬の頭部の女性らしさ •ネコの顔 •(紅明という)花 •地 •鏡・玉
- おれは男だといいたがるタイプの人間 •田中康夫 •三条実美 •長州

『学研国語大辞典』に「女性的」の意味は次のように記載されている。

- ①女性らしいようす。女性を思わせるようす。しとやかであったり弱々しかったり、くよくよしたりするなど。「かほそいーな声」「品のいいーなしぐさ」
- ② [ひゆ的に、風景などが] おだやかでやさしい感じを与えるようす。
「其れに反して今見るフランスの野は何も彼も皆一で夜の中に立つ森の沈黙は淋しからぬ暖かい平和を示し、」

実際の用例を見ると、人物や風景についてだけではなく、例文（エ）のように（長州に住む人々を含む）長州というところ、インテリア、色彩、体型、宗教、言葉づかいや語調などの表現、鏡・玉やたまごのような丸みを帯びたものなど、様々なことがらが「女性的（な）」と表現されるようだ。

B：前後の文脈に現れ、女性を思わせる表現（どのように「女性的（な）」か）

(オ) (ジャケット&パンツスタイルを)メンズライクなアイテムながらもほどよく体にフィットさせてエレガントな女性的ラインに仕上げている。

『装苑』2001年8月号（第56巻第8号）

(カ) 単にマザーコンプレックスと言ってしまうばそれまでなんだけど、実は非常に厚かましい女性的な欲望というものが青少年をスポイルしている。

『建築をめぐる30人との知的冒険』古山正雄（著）角川書店、2003年

その他の例：

- 優美な •やさしい •繊細で優しく •とても繊細 •母性がある •母的
- 嫉妬深く、意地悪で、利己主義、心が狭いなど、悪い意味での
- 人当たりがよく •ソフト •美しく
- デリケートな神経をもち、傷つきやすい性格の
- 「きれい、かわいい」をよしとするような伝統的な

- 豊頬の官能的な、このうえなく美しい
- 自分の肉体を大切にする
- 気品があって
- 柔らかい肉体をもつ
- 受身的、受容的關係を作るといふ
- 細やかな、繊細、おしゃれななど
- 感情豊かにコミュニケーションをとれる

例文(オ)のように「エレガントな」や、その他の例の「優美な」「やさしい」「繊細」のような良いイメージに「女性的(な)」が使われている一方で、例文(カ)のような「厚かましい」や、「嫉妬深く、意地悪で、利己主義、心が狭いなど」まさしく悪い意味が「女性的(な)」に前接して使われることもある。母、美しさ、気品などのような一般的に女性を彷彿させる表現の他にも、近年の例では「感情豊かにコミュニケーションをとれる」が見られ、辞書に記載されていたような「しとやかで、弱々しい、くよくよするようす」とは異なるが、「女性的(な)」の関連表現や「女性的(な)」が表すイメージは、時代とともに変化してきているのだろう。

6 おわりに

本稿では、語基「男性」「女性」を一例に、「-的(な)」に関する現象を考察してきた。「男性的」「女性的」の後接形態から、活用語尾「な」がある形で連体修飾としてはたらく規定用法が圧倒的に多いことを明らかにした。一方で、「男性的 ϕ + 体言」「女性的 ϕ + 体言」の形は、臨時一語と位置づけた。「男性的 ϕ 」及び「女性的 ϕ 」と「男性的な」及び「女性的な」に後接する語の語種には差異が認められ、「男性的な」「女性的な」のほうが多くの語種とむすびつき、文の中での他の単語との固定性がやや緩いのではないかという結論に至った。また、意味的観点から実際の用例における現象を分析し、「男性的(な)」と「女性的(な)」の「-的(な)」に多様な意味を見出した。さらに、「男性的な」「女性的な」と「男性的 ϕ 」「女性的 ϕ 」の間には(共通するところも多いが)違いも認められ、「男性的な」は女性について言及することがあること、「女性的な」は男性について言及することが比較的多く見られることが文脈の中で確認でき、そのような傾向は「男性的 ϕ 」及び「女性的 ϕ 」には見られないことが分かった。意味的に見ても、「男性的な」及び「女性的な」は、「男性的 ϕ 」及び「女性的 ϕ 」よりも幅広く、自由に使えるようである。逆に言えば、「男性的 ϕ 」及び「女性的 ϕ 」は、臨時一語を形成し、後接する語との固定性が強く、意味的にも制限が加わるのだろうという結論に至った。各考察結果の詳細は、各々の項に述べたので、そちらを参照されたい。最後に、「男性的(な)」「女性的(な)」の関連表現から、なにが、どのように「男性的(な)」のか、「女性的(な)」のかにも触れた。今後は、他の様々な語基も例に「-的」の本質を追究していきたい。

注

- 1 本稿では、「男性的φ」「女性的φ」と「男性的な」「女性的な」を区別して記述している。「男性的（な）」「女性的（な）」は「φ」の形と「な」がある形の両方を指す。「男性的」「女性的」のみの記述は語幹を指している。同様に、本稿では「-的φ」「-的な」も「-的（な）」と区別している。先行研究において「的」と書かれていた場合、それらに触れる際や先行研究に関連して論じる場合にはなるべく先行研究の原文のとおり記述することとし、本文中で「的」を使用し、「-的」と区別したが、記述の方法の違いであり、形態的・意味的差異があることを表しているのではない。
- 2 「男性的φ」に後接する語の中には、「犯行手口」のような合成語も採取されたが、文脈からも「男性的φ」が「犯行」にかかっているのか、「手口」にかかっているのか判断できないようなものは【表1】には含めなかった。
- 3 語基が「男性」「女性」ではなく、「国民」の場合、例えば「国民的φ+歌手」といった合成語の「φ」の部分に、「な」を添加すると、むしろ不自然に感じられる語があるが、「国民的歌手、国民的俳優、国民的美少女…」のような語は、ある時の流行語やキャッチコピーとして等の理由で、世間で一般化しており、「な」がない形の方が社会的に定着度が高いケースもあるようである。
- 4 現代の日本作品の「現代」とは、本稿では大正以降の作品を指している。

参考文献

- 石井正彦（2007）『現代日本語の複合語形成論』ひつじ研究叢書＜言語編＞第49巻，ひつじ書房。
- 宇佐見英美子（2001）「接尾辞『～的』について」『津田塾大学紀要』No.33，津田塾大学紀要委員会，pp.239-261。
- 遠藤織枝（1984）「接尾語『的』の意味と用法」『日本語教育』53号，日本語教育学会，pp.125-138。
- 金田一春彦・池田弥三郎編（1998）『学研 国語大辞典』第二版，学習研究社。
- 小出慶一（2003）「接辞『～的』の新しい用法―『～的には』という意味について―」『群馬県立女子大学 国文学研究』第24号，群馬県立女子大学国語国文学会，pp.1-14。
- 国立国語研究所編（2004）『分類語彙表 増補改訂版』，大日本図書。
- 鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』，むぎ書房。
- （1996）『形態論・序説』，むぎ書房。
- 高橋勝忠（2005）「『的』論考」『英文学論叢』49号，京都女子大学，pp.1-22。
- 趙虹（2008）「新しい用法における接尾辞『-的』の意味と機能」『日中言語研究と日本語教育』創刊号，好文出版，pp.35-42。
- 日本語文法学会編（2004）『日本語文法事典』，大修館書店，pp.207-211。
- 林四郎（1997）「臨時一語の構造」『日本語研究資料集 語構成』，ひつじ書房，pp.268-280。

- 原由起子 (1986) 「特集・接辞 - 的 - 中国語との比較から -」『日本語学』, 明治書院, pp.73-80.
- 藤居信雄 (1957) 「的ということば」『言語生活』71号, 筑摩書房, pp.71-76.
- (1961) 「的の意味」『言語生活』119号, 筑摩書房, pp.80-83.
- 宮島達夫 (1994) 『語彙論研究』, むぎ書房.
- 松井栄一・林大編 (2000) 『日本国語大辞典』第二版, 小学館.
- 村木新次郎 (1998) 「名詞と形容詞の境界」『言語』27巻3号, 大修館書店, pp.44-49.
- (2012) 『日本語の品詞体系とその周辺』ひつじ研究叢書〈言語編〉第101巻, ひつじ書房.
- 山下喜代 (1999) 「字音接尾辞『的』について」『日本語研究と日本語教育』, 明治書院, pp.24-38.
- 山田巖 (1961) 「発生期における的ということば」『言語生活』第120号, 筑摩書房, pp.56-61.
- 山田俊雄・築島裕・小林芳規・白藤禮幸編 (1995) 『新潮国語辞典』第二版, 新潮社.
- 李長波 (2006) 「近世、近代における『～的』の文体史的考察」『デュナミス』第10号, 「デュナミス」編集委員会, pp.68-89.

例文出典

『CD-ROM版 新潮文庫の100冊』(1995) 新潮社

『CD-ROM版 新潮文庫の絶版100冊』(2000) 新潮社

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所